

受け継がれる  
愛と絆

# 3世代ウエディングを辿る

静岡在住のご家族3世代に静岡Weddingがインタビュー！  
結婚式の思い出を振り返りながら、世代によって異なる結婚式の形態や、  
子供の結婚を迎えた親の気持ちなど、たっぷり語って頂きました！  
ホッと心が温まる幸せいっぱいの内容をお届けします

Question.  
パートナーの好きなどころ、良いところは？

いろいろ  
可愛い

健康ばいさ

家族を大切に  
してくれる

元気で裏表の  
ない所

いっぱい  
食べてくれるとさ

丈夫で長生き

娘婿

お父さん

おばあ  
ちゃん

娘

お母さん

おじい  
ちゃん

2011年2月7日結婚  
【結婚3年目】  
友光 徹次さん(30歳) &  
美穂さん(27歳)

1985年11月16日結婚  
【結婚28年目】  
法月 重夫さん(61歳) &  
博美さん(56歳)

1954年2月26日結婚  
【結婚59年目】  
松下 豊さん(84歳) &  
はるさん(83歳)



家族年表

博美「出産を経験して、母もこうして私を産んでくれたのだと知りました。美穂はとにかく良く泣く子で、夫と支え合いながら初めての育児に奔走しました」



はる「陣痛が始まったと聞いた時は、待ち遠しいのと博美が心配なのでドキドキでしたが、元気に生まれて来てくれてとても嬉しかったです」

はる「博美はお腹にいる時から元気がよくて、主人は『絶対男の子だと言っていました(笑)』。生まれてからも男の子顔負けに活発で、行動力のある子でした」





2012年7月15日の結婚式  
徹次さん(当時29歳) &  
美穂さん(当時25歳)

プログラムにも演出にもふたりらしさを  
ゲストと楽しむアットホームW♪

# 2012

実は入籍当初、人前に出る恥ずかしさから結婚式に前向きではなかったという美穂さん。けれど徹次さんの勧めでフェアに参加していきうちに、次第に憧れを抱くようになったのだそう。そして入籍から約1年半後に迎えた結婚式。「大切な人達の笑顔に包まれて、とっても幸せでした」と美穂さん。「結婚式を挙げることで、彼女を生守っていくという決意が一層強くなりました」と徹次さん。また、重夫さんたちも、「娘が結婚したことを改めて感じ、区切りをつけることができました」とのこと。家族皆にとって、かけがえのない1日となりました。



1. スタンドグラスから差し込む柔らかな光に包まれ、愛を誓うふたり 2. 「娘のグローブを着ける時“赤ちゃんの頃、こうして靴下を履かせてあげたな...”と昔を思い出したら、涙が溢れてきました」と博美さん 3.4. 挙式後はガーデンでバルーンリリースやフラワーシャワー等、開放感あふれる演出を 5. 披露宴を盛り上げた友人たちの見事なダンス☆曲目は“ヘビーローテーション”! 6.7. ふたりの愛猫タマ&クマを飾り付けたオリジナルWケーキ 8. デザートタイムはふたりも会場内を自由に歩き出し、ゲストと歓談のひと時を。豊さんとはるさんとも記念に1枚♪ 9. 生まれた時の自分と同じ体重のぬいぐるみを両親へ。受け取った瞬間、初めて我が子を抱いた記憶が甦ります



お見合い結婚が多かった時代に、恋愛結婚をしていたとは...!お父さんも随分情熱的だったんだなと驚きました!ふたりの凛々しい姿が素敵ですね



祖母が黒留袖で祖父がタキシードという組み合わせも、ご近所の座敷で式を挙げた事も、わたしたちの結婚式と違うことだらけでとても新鮮でした!



1954年2月24日の結婚式  
豊さん(当時24歳) & はるさん(当時23歳)

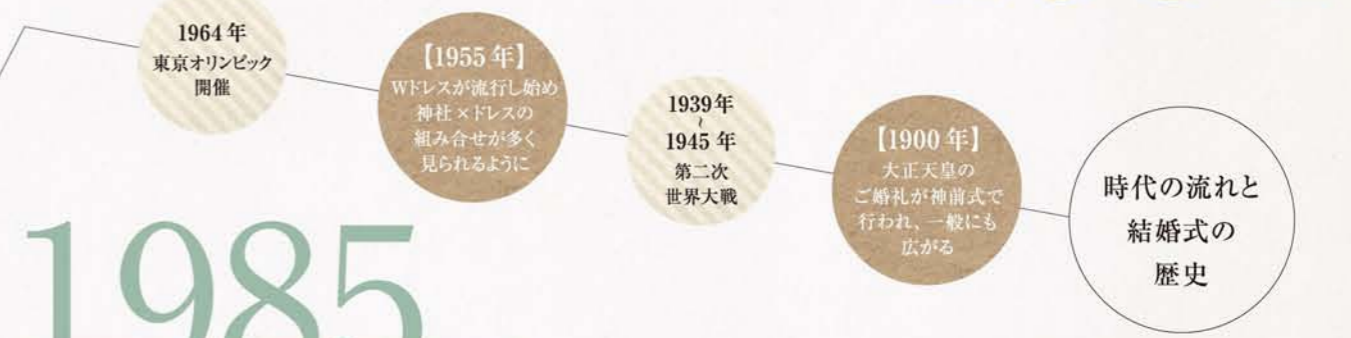
嫁ぐ意味を今より重んじた時代  
実家を離れる事が少し寂しかった

豊さんの猛アタックにより、交際から結婚まで決まったというふたり。式当日の心境を伺うと「豊さんのことはとっても好きでした。でも本当はね、少しだけ寂しさもありました。当時結婚といえば何よりも嫁ぎ先が第一。簡単に実家には帰れなくなる時代でしたから...」とほろりとした豊さん。間もなく結婚でくれた豊さん。間もなく結婚60周年を迎える今も互いに健康で、週末は子や孫達に会いに出掛けるなど、ふたりで幸せな日々を送っているとのこと。



# 1954

【結婚式の流れ】  
①新郎が新婦の実家に迎えるにきて、一緒に会場へ。(町内の魚屋の2階が会場)  
②夫婦固めの杯。酌人は雄辯離業と呼ばれる親戚・ご近所の若い男女のことも務めた  
③飲談。この時親戚から贈られた詩「豊かなる春を迎えて水久に千代に栄えよ松の下に」が忘れられないそう  
④結婚式が終わると、松下家の実家へ。提灯を片手にご近所に結婚の挨拶回りを



時代の流れと  
結婚式の  
歴史

1985年11月16日の結婚式  
重夫さん(当時32歳) & 博美さん(当時27歳)

豪華絢爛な衣裳に迫力の演出!  
当時の流行を取り入れた華やかな結婚式

結婚式にまだ、ふたりらしさを求めていなかった時代、好きな曲を選んだり当時話題だった尾長(写真①)を取り入れるなど、こだわりの結婚式を叶えた重夫さんと博美さん。喜びに溢れたひとは、今も大切な思い出なのだそう。博美さんは結婚生活を振り返り「新婚の頃は、夫と同じ家に帰れることがとても幸せでした。子育ては喜びが大きかったですが、時には大変さに悩んだこともありましたが、夫が寄り添い、色々なことを共有してくれたからこそ今があるのだと、主人なしでは私の人生は考えられません」と語ってくれました。



1. 当時花嫁の間で流行した「尾長(おなが)」と呼ばれるスタイル。別名「御台所」。江戸時代は大名の正妻だけが許されていた高貴な髪型  
2. 披露宴の入場は仲人さんと 3. ふたりの身長を優に越す大きなウエディングケーキ!入刀時のドライアイスが迫力満点! 4. 友人たちが当時の流行歌「セーラー服を脱がさないで」の歌に乗せてダンスを披露♪  
5. お色直し後はキャンドルサービスをしながらテーブルラウンド

【現代】  
“ふたりらしさ”を  
カタチにした  
様々な結婚式が  
行われている

【1990年代】  
ホテルWが中心となる中  
新たにゲストハウスWや  
レストランWが誕生

1986年  
1991年  
バブル景気

【1980年後半】  
チャペル挙式が定着  
お色直しもカラードレスを  
着用する等  
洋装思考が強まる

【1970年後半】  
数回のお色直しや  
キャンドルサービス  
ケーキカットなど様々な  
演出が登場

ちよと/イイお話♪  
取材の際、博美さんが教えてくれた印象的なお話がありました。  
「夫が結婚の挨拶に来たときに、父が言った言葉です。“娘に苦労はさせたくない、だからといって贅沢な暮らしも望まない。ただ普通の暮らしをさせてやってほしい”と...。あの頃は若くて気にもとめていなかったことですが、自分も娘を送り出す立場になり、あの時父が言っていた言葉の意味がようやくわかるようになりました」  
時代や結婚式のカタチが変わっても、変わらないのは“親の愛”。読者の皆様、世界で一番あなたを愛してくれた家族の為に、幸せな結婚生活を叶えて下さいね♪

ケーキ  
入刀やキャンドル  
サービス等、自分達と  
同じ演出でもやっぱり  
雰囲気は違いますね!  
尾長もドライアイスの  
演出も、今やったら  
逆に新鮮かも!?

博美が  
結婚したときは、重  
夫さんのお家に嫁いで  
ちゃんとやっていたら  
うかど心配もした。でも  
やっぱり、娘の晴れ姿  
というのは嬉しいもので  
したね!

